

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
北海道	北海道大学	<p>○本学学生99名から、被災地のボランティア活動に参加する届出があった。（学生が個人的に参加）</p> <p>○本学学生相談室において、ボランティア活動後のメンタルヘルスケアのため、活動を行った学生全員と連絡を取り、必要に応じて学生との面談を行っている。</p>
北海道	北海道教育大学	<p>《全学》○学生のボランティア活動への参加を促進するため、「東日本大震災の被災地でのボランティア活動を学生が申し出た場合の取扱い」（平成23年4月12日学長裁定）を定め、参加学生は授業を欠席扱いにしないこととし、履修期間の不足分については補講・レポート等で補完することができることとした。また、活動経費の補助として1日2,000円を支給することとした。</p> <p>《札幌校・旭川校・岩見沢校》○4月下旬から、5月の連休期間中に札幌校の学生3人が岩手県釜石市、宮城県石巻市、同県仙台市若林区、旭川校の学生5人が岩手県遠野市において、また、岩見沢校の学生1人が宮城県仙台市、岩手県花巻市において家の中の泥除去や物置の荷物運搬、床下のヘドロ撤去などに従事した。</p> <p>《岩見沢校》○岩見沢校のスポーツ教育課程アウトドア・ライフ専攻の学生7人と教員2人が、3月27日、被災地の岩手県野田村に現地入りし、ボランティア活動を開始した。テントで自炊生活をしながら、子ども遊び隊を結成し避難所で生活している野田小学校の子どもたち（延べ60人）とゲームをしたり、家屋のがれきの撤去や避難所の風呂掃除などに従事し4月10日、岩見沢に戻った。</p> <p>○上記活動の第2弾として、8月4日から8月7日の4日間、再び岩手県野田村に現地入りし、夏休み中の子ども達を対象に、ネイチャーゲームや草木染め、野田村特産の塩を使ったうどん作り等、遊びを通じた支援活動を行った。（6月中旬にも現地を訪れ、事故調査を行い、今後の支援の在り方を検討した。）</p> <p>《釧路校》○学生1名が岩手県大船渡市で4月14日から26日にかけて、13日間ボランティア活動に従事した。</p> <p>《釧路校》○災害支援くしろネットワークに学生9名が参加し、7月下旬から8月にかけて、岩手県釜石市と岩手県（釜石、気仙沼、遠野市）でそれぞれ3日間ボランティア活動に従事した。</p> <p>《全学》○平成24年2月29日までに学生68名が岩手県や宮城県の被災地に赴き、がれき撤去やヘドロ除去等のボランティア活動を実施した。</p> <p>《全学》○宮城教育大学からの要請に基づき、「宮城教育大学教育復興支援センター 復興支援塾事業」へ本学学生1名を派遣した。（7月25日～28日）</p> <p>《旭川校》○平成23年6月15日から18日まで、旭川校学生2名が宮城県山元町において、被災家屋の庭の泥掃除、がれきの撤去作業を行った。</p> <p>《旭川校》○平成23年6月25日から29日まで、旭川校学生1名が宮城県南三陸町において、炊き出し支援、ボランティアセンターの受付業務等を行った。</p> <p>《旭川校》○平成23年8月13日から14日まで、旭川校学生1名が宮城県南三陸町において、がれきの撤去作業を行った。</p> <p>《旭川校》○平成23年10月2日から11日まで、旭川校学生1名が宮城県気仙沼（大島）において、仮設住宅のアセスメント及びイベント（芋煮会）補助を行った。</p> <p>《旭川校》○平成23年10月10日から12日まで、旭川校学生1名が宮城県南三陸町において、河川等のがれき撤去作業を行った。</p>
北海道	室蘭工業大学	<p>○夏期休暇中に被災地でのボランティア活動を計画している学生に、事前の計画（現地状況把握、登録等）、安全確保、保険等についての情報提供を行った。</p>
北海道	小樽商科大学	<p>○本学大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻の社会人学生1名が、被災地にて2週間のボランティア活動（5月上旬まで）</p>
北海道	帯広畜産大学	<p>全国大学生協連が募集したボランティアに、学生6人（留学生1名を含む）の参加申込みがあった。</p> <p>○実習で作られた野菜を被災地に持参し、学生・教員が炊き出しを行った（11月3日名取市）。</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
東北	弘前大学	<p>○人文学部ボランティアセンターに登録の学生ボランティア、延 1,038名を岩手県九戸郡野田村へ派遣し、瓦礫撤去や物資仕分作業等を行った。 (本学教員及び弘前市民の登録者も派遣) URL : http://huvc.net/ ※4月12日、～8月31日迄実施。9月以降は復興祭等イベント活動の支援を行った。</p> <p>○人文学部ボランティアセンターでは、被災地への支援・交流活動を単位修得の必須条件とした「東日本大震災復興論」を21世紀教育科目として開設し、120名の学生が受講した。</p> <p>○被災地においてボランティア活動を実施する学生団体等へ活動費を助成することとした。11件の申請があり、9件を採択、うち8件が実施済みで、465,775円を支給した(現在受付中)。 URL : http://www.hirosaki-u.ac.jp/information/06.pdf</p> <p>○被災地(6/17、8/25、8/26 岩手県宮古市、10/10 宮城県登米市、11/1岩手県岩泉町、11/5岩手県野田村、11/27岩手県釜石市、12/3岩手県久慈市、12/17宮城県仙台市、12/18福島県郡山市)での演奏活動による被災者支援活動(活動団体はグラスハープ・アンサンブル、スティールパン部、津軽三味線サークル、カンターピレオーケストラ)</p>
東北	岩手大学	<p>○大船渡市災害ボランティアセンター：被災住宅内の片付け作業、大船渡市教育委員会：校舎内の清掃作業・仕出しおにぎり作り 4/6～4/7、4/14 延べ138名</p> <p>○盛岡YMCA宮古ボランティアセンター：宮古市内の支援ニーズ調査、屋内片付け、地域のイベント運営支援等 4/13～(継続中) 延べ557名</p> <p>○陸前高田市災害ボランティアセンター：避難所及びボランティアセンターの運営支援等 4/7～(継続中) 延べ330名</p> <p>○山田町：避難所での炊き出しの手伝い 4/16 7名</p> <p>○岩手県少林寺拳法連盟からの要請：陸前高田市での炊き出しの支援 4/10、13 延べ11名</p> <p>○岩手県教育委員会からの要請： ・花巻市での支援物資(学用品)の仕分け 4/20～4/22 延べ4名 ・大船渡市での図書の整理作業 6/13、6/22 延べ20名 ・住田町での体育の授業補助 7/11、7/27 延べ6名</p> <p>○日本助産師会などの要請：八幡平市での被災地の妊婦や乳幼児の母親を対象としたプログラム実施のサポート 4/28～5/1 延べ32名</p> <p>○二十一世紀倶楽部・夢の課外授業実行委員会主催：夢の課外授業・希望プロジェクトのサポート 5月30日 5名</p> <p>○文部科学省職員教育行政等実務研修：宮古市での民家の健在の撤去作業等 8/23、8/24、8/29 延べ1821名</p> <p>○宮古市、釜石市及び大槌町での、中学生を対象とした学習支援活動 12/25～(継続中) 延べ93名 http://www.iwate-u.ac.jp/reconstruct/activities.shtml#volunteer</p>
東北	東北大学	<p>・本学学生ボランティア組織には現在1000人ほどの学生が登録。介護老人福祉施設、県庁関係部局での事務補助など活発な支援活動を行っている。また、宮城県より要請を受け4月6日より山元町へ毎日40人以上の学生等が赴き避難所等における支援活動や、気仙沼避難所等への支援物資搬送、仙台市内の避難所や仮設住宅において児童への学習支援など活発に活動を展開 http://tohokugakuseifukko.blogspot.com/</p> <p>・震災に伴う本学学生のボランティア活動を支援し、学生が安心・安全に活動できるよう内外の調整を行うため、学生ボランティア支援室を設置(6月～)</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
東北	宮城教育大学	<p>○大学が仙台市ボランティアセンターでの支援物資荷下ろし、仕分け作業に学生ボランティア6名を派遣（3月19日）</p> <p>○大学が県立石巻支援学校に避難している障害のある児童生徒の学習支援ボランティア及び避難住民のサポートとして、学生24名を派遣（4月11日～5月12日）</p> <p>○大学が仙台市内の中学校での学習支援等ボランティアとして、学生28名を派遣（4月18日～4月28日）5月2日以降も、4名～6名が日程調整をしながら交替で継続して活動中（5月2日～現在）</p> <p>○大学が仙台市内の中学校での沿岸部の被災地への炊き出しボランティアとして、学生6名を派遣（4月23日）</p> <p>○大学が仙台市内の中学校での簡易給食の調理補助して、学生10名を派遣（4月26日～5月6日）</p> <p>○230名の学生が、自主的に各地区ボランティアセンター等で瓦礫の片付け、汚泥のかき出し、子どもの遊び相手等のボランティア活動を行っている。（3月11日～現在）</p> <p>○大学が仙台市内の小学校3校で、学習支援等のボランティアとして、学生72名を派遣し、日程調整をしながら交替で支援活動中（5月16日～現在）</p> <p>○6月28日に、「教育復興支援センター」を立ち上げ、教育大学の任務として教育現場の支援を全面的に開始した。全国の11国立教育系大学及び国立大学の教員養成学部の協力のもと、全国からの学生ボランティアを本学が受け入れ、被災学校のニーズに応じ、中長期的な視野で教育復興支援を今日まで継続している。2月末時点では、県内外の61ヶ所の小・中・高校に学習支援等のボランティアを、約560名（内、他大学生120名）を派遣している（7月21日以降）。</p>
東北	秋田大学	<p>○医学部の学生2名がNPO法人ジャパンハートの呼びかけに対して石巻市の避難所にてカルテ整理・血圧測定等のボランティア活動を行った。（4月5日～13日）</p> <p>○教育文化学部の学生1名がNPO法人と一緒に気仙沼市にて瓦礫撤去・ヘドロ上げのボランティア活動を行った。（3月30日～4月1日）</p> <p>○秋田県内他大学の学生と一緒に医学科学生4名と工学資源学部学生2名が日帰りで岩手県陸前高田市の被災地でボランティア活動を行った。（4月30日）</p> <p>○教育文化学部の学生4名が宮城県仙台市の避難所における子どもとの交流、レクリエーション等を行った。（5月4日）</p> <p>○秋田県内他大学の学生と本学学生の合同で災害ボランティア活動を行った。 （5月14日、6月26日、岩手県陸前高田市：本学学生延べ19名） （5月21日、6月4日、6月18日、7月3日、12月18日、宮城県気仙沼市：本学学生延べ62名） （6月26日、岩手県大船渡市：本学学生10名）</p> <p>○秋田学生復興支援ネットワーク主催の被災地支援ボランティア活動への参加学生に対し、大学から参加費を援助している。</p> <p>○秋田大学及び県内の他大学の学生で組織する「秋田学生復興支援ネットワーク」（通称：SSN）に対し、県内の高等教育機関で組織する「大学コンソーシアあきた」を通じて、必要物品等の支援及び参加学生に対し、本学から参加費を援助している。</p> <p>○工学資源学部の学生2名が岩手県陸前高田市で草刈り・瓦礫撤去のボランティア活動（主催：やらねば！横手（地震・災害支援の会））を行った。（9月15日）</p> <p>○秋田大学学生支援総合センター主催による2泊3日の被災地支援ボランティア活動（草刈り作業、瓦礫撤去作業等）を実施した。 （9月9日～11日、岩手県釜石市：教職員4名、本学学生34名） （11月25日～27日、岩手県陸前高田市：教職員4名、本学学生30名）</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
東北	山形大学	<p>○5月4日、5日の2日間で、約180名の学生、教職員、社会人のチームで石巻に日帰りボランティアバスツアー（スマイルエンジン）を実施。石巻の被災地の側溝のヘドロ掃除と一般住宅の瓦礫撤去、清掃作業を実施した。この活動はSmile Trade 10%の中の1つとして位置づけられるもので、今後 毎週土曜日に継続して学生や社会人を被災地にボランティアとして送り込むシステム構築を目指している。</p> <p>これまでに34回の実施で約1300名が参加し、8月には、立命館大学や京都造形大学も新たに加わり石巻での瓦礫撤去作業や仮設住宅へのボランティア活動を実施した。</p> <p>○2011年度前期基盤教育科目「実践的キャリア教育学」の一環として4月29日から実施したボランティア活動では、仙台市における被災者宅の瓦礫撤去、清掃、畑の復旧活動、ボランティアセンターの支援等、塩釜市浦戸桂島における瓦礫撤去、清掃、畑の復旧活動、避難所の支援物資の搬送等、本吉郡南三陸町の仮設住宅における炊き出しや学生自身が栽培した無農薬野菜の配付等を行った。8月末日まで被災地ボランティアは計13回実施し、のべ合計337名（うち山大学生275名）が参加した。今後9月中に、宿泊を伴う活動を含め4回を予定している。</p> <p>○山形県等からの要請で、以下のボランティアに学生を派遣した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月18日、山形県ボランティア本部からの要請で、山形県庁内のボランティア本部における記録及びメール送信業務のため、学生を派遣した。 ・3月18日から4月6日まで、山形県ボランティア本部からの要請で、被災者の避難所となっている山形県体育館において、避難者の子供達の相手、支援物資の運搬及び仕分け、ポスター作成等のため、12、3名の学生を派遣した。 <p>○ボランティアを希望する学生に対して、社会福祉協議会のボランティア活動保険への加入にかかる費用を大学が全額負担している。</p> <p>○学生が「山形大学人文学部震災復興支援学生プロジェクト」を立ち上げ、避難所などへ学生ボランティアとして参加している。被災者と被災地の支援活動を精力的に行っている。学生プロジェクトは、これまで、山形市内避難所（山形市総合スポーツセンター）でのボランティア活動に取り組みながら、宮城県東松島市と石巻市における復興支援活動として、①除菌水を作る機械の設置・除菌用品の提供、②炊き出し、③ヘドロの処理、④瓦礫の処理等の活動を行ってきた。また、被災地で使用する自転車・小型バイクの収集・修理・提供等も行っている。（8月までの5ヶ月間で40回以上実施）</p> <p>○山形県栄養士会からの要請を受け、地域教育文化学部の学生59人を避難所に派遣した（炊き出し、給仕活動、支援物資の仕分作業）。</p> <p>○地域教育文化学部の学生が自主的に避難所で児童生徒を対象に支援活動（遊び・スポーツ活動、本の読み聞かせ、話し相手活動等）を行った。</p> <p>○山形市教育委員会から、避難所周辺の小中学校へのスクールサポーター要請があり、地域教育文化学部の学生を派遣した。</p> <p>○理学部及び農学部の学生が中心となって、本県の避難施設の一つとなっている山形市総合スポーツセンターに、被災者への食事提供として、学生及び教職員からお米の寄附を募り、「おにぎりプロジェクト」を実施した。</p> <p>○学生が被災地へボランティア活動をする際の基本的な注意事項を作成した。それを学生に活動前に確認させ、ボランティア保険への加入を義務づけた上で参加することとし、後日、報告書の提出を義務づけた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学生ボランティアが米沢市の避難所において支援活動（個人参加） ○学生ボランティアが避難住民の方々向けの花見会を支援（個人参加） <p>URL : http://www2.yz.yamagata-u.ac.jp/dayori/2011/110501volunteer.html?storyid=767</p> <ul style="list-style-type: none"> ○災害ボランティアの募集と被災地派遣（個人参加、5月21日～7月23日及び11月12日～12月3日まで、宮城県沿岸部、米沢市社会福祉協議会と共同実施） ○学生ボランティアが学内放置自転車を修理して被災者に提供（個人参加、準備中） ○学生による芋煮の炊き出し支援を実施した（石巻市、南三陸町など）

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
東北	山形大学	<p>○自転車の提供（無償提供された中古自転車を修理し、被災地に届ける（5月9日現在、43台を提供（宮城県）） 8月31日現在、93台を提供（宮城県） 6月30日現在、被災地で80名、被災地外で330名の学生が参加</p> <p>○農場のヤギとのふれあいを実施（エサあげ・乳しぼり等(福島県)）（5月5日） 5月 5日(福島県福島市：教職員1名 学生2名参加) 参加人数：約40名 5月21日（山形県山形市：教職員1名 学生3名参加）参加人数：約60名 6月11日（宮城県巨理町：教職員1名 学生2名参加）参加人数：約40名 6月11日（宮城県山元町：教職員1名 学生2名参加）参加人数：約40名</p> <p>○福島県からの米沢市に避難している住民に対するお茶飲み会の支援（学生参加） ○米沢市への避難住民に対する交流・復興イベントの支援（教員参加） ○学部の正規科目である「地域づくり特別演習（二）」に新たに震災支援部門を設け、通算1週間以上ボランティア活動を行い、かつ学部の定める要件を満たした学生3人に2単位を与えた。 ○5月7日に山形県体育館において、避難者たちに元気を付けるために、留学生たちによりコンサートを開いた。 ○「山形文化遺産防災ネットワーク」の一員として、宮城県立農業高等学校の蔵書や陸前高田市立博物館の所蔵資料をお預かりして、本学で週一回、クリーニングのボランティア活動を行い、教員指導のもと本学部の学生を含む10名程度学生が積極的に参加している。 ○2011年度後期基盤教育科目「現代社会を生き抜くためのプレゼンテーション学」の一環として10月2日から実施したボランティア活動では、塩釜市浦戸桂島における瓦礫撤去、清掃、仮設住宅における炊き出し、被災地のニーズ聞き取り調査、観光資源復旧のための葉の花畑の復旧活動、観光再生のための観光ツアー企画運営等を実施した。2月末までのこれらの被災地ボランティアは計17回実施し、前期の活動と合計して、のべ合計772名（うち山大学生634名）が参加した。3月末までに、2回実施する予定である。 また、上記授業の一環として、10月から、仙台市NPOとの連携による子供の学習支援を、仙台市内の仮設住宅、集合住宅等で毎週平日月曜日～金曜日に実施している。2月17日までの参加者合計は山大学生だけでのべ225名。今後3月末までに、のべ59名が参加する予定であり、この活動は、4月以降の2012年度前期基盤教育科目「実践的キャリア教育学」で引き続いて実施する予定である。</p>
東北	福島大学	<p>○大学生協が募集するボランティアへの参加者16名。 宮城県七ヶ浜町にて5日間従事、3年生（男6名、女3名）、4年生（男1名、女6名）。 ○学生ボランティア約70人が大学開設避難所の食事準備・物資運搬や子ども達との工作等の多岐にわたる支援活動をローテーションで実施。（3月16日～4月30日） ○学生ボランティアの活動を紹介しているブログを開設。 URL:http://fukudai311.blog.fc2.com/ ○人間発達文化学類 東日本大震災教育支援プロジェクト「子ども支援ボランティア」として、あづま総合体育館、土湯・飯坂・磐梯熱海温泉、郡山養護学校、ピックパレットふくしまの避難所にて、のべ90回の学習・遊び・生活支援活動を実施。（4月下旬～7月下旬） (http://web.me.com/hirokiyumi/volunteer/volunteer_blog/volunteer_blog.html) ○附属中学校音楽部による避難所慰問演奏会を実施。 ・ 4月16日：福島大学生協ロビー（生徒27名） ・ 4月23日：あづま運動公園内体育館（生徒27名） ・ 6月25日：あづま運動公園内体育館（生徒40名） ○5月1日に「学生団体 福島大学災害ボランティアセンター」が発足。 ○学生による被災地での主なボランティア活動は以下参照。 <人間発達文化学類東日本大震災教育支援プロジェクトホームページ> http://web.me.com/hirokiyumi/volunteer/volunteer_blog/volunteer_blog.html <学生団体 福島大学災害ボランティアセンターホームページ> http://fukudai-volunteer-center.jimdo.com/ ○東日本大震災に伴うボランティア活動に対して単位の認定を決定。 ○人間発達文化学類において、8月7日～10日に被災児童・生徒を対象とした「自然体験学校」を開催し、113名が参加。 ○福島市教委主催の「のびのび遊ぼう夏休み体育館開放事業」や「福島市の子どもたち・夏のリフレッシュ体験事業」に学生ボランティアとして参加。 ○人間発達文化学類及びうつくしまふくしま未来支援センターにおいて、浪江町教育委員会・NPO法人と共催し、9月から3月まで、福島市・二本松市・本宮市内の6カ所の仮設住宅において遊びと学び教室「未来のたね」を毎週土曜日に実施。同事業の一環として、12月17日は福島大学で「クリスマスパーティー」を、2月12日及び19日には「日曜日子どもキャンパス」を開催。 http://fure.net.fukushima-u.ac.jp/event/in-1.php</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
関東・甲信越	茨城大学	<p>○県内で被害が最も大きい北茨城市に、塀等の後片付け・支援物資の整理・聞き取り調査・学習機製作を行う学生ボランティア21人を派遣（4月4日～4月8日）</p> <p>○地元小・中学校児童・生徒の相談相手・資料整理、幼稚園の保育補助を行う学生ボランティア延べ84名を派遣（4月25日～8月26日）</p> <p>○上記活動に対し、東日本大震災ボランティア活動報告会を開催（10月6日）し、ボランティア参加学生に活動証明書を授与（参加者数23名）</p> <p>○県内4カ所の避難所の子供達の心のケアを行う心理専門の教員4名と院生2名を派遣（4月1日）</p> <p>○高萩市に届けられた支援物資の仕分け作業の手伝いを行う学生ボランティア13名を派遣（5月24日）</p> <p>○福島から避難されてきた妊産婦・お母さんと茶話会を実施し、情報交換や専門家への取り次ぎなどの相談を行った。（7月13日、9月2日）</p> <p>○学生によるボランティア体験談を、大学HPにて募集。16件の投稿</p>
関東・甲信越	筑波大学	<p>○ボランティア活動について単位認定（1単位）→学群5名、大学院2名の単位認定を行った。</p> <p>○ボランティア活動従事期間における授業欠席に対する特別な配慮（補講、課題、レポート、追試等）</p> <p>○福島県会津坂下町の川西地区（元小学校体育館）に避難した葛尾村住民約100人を対象に、音楽を使った30分の運動（ストレッチ、深呼吸）を2日行った。避難者に好評だったため、避難者が自分たちで継続できるように、指導者養成を行った。養成対象は、葛尾村役場の生活担当の人が推薦した10代から20代の若い女性4人。3日かけて講習して指導者養成を行った。ボランティアは、筑波大学院生1名が中心となって会津坂下町職員1名、坂下町住民2名のチームで行った。院生は3/29～31日滞在。交通・宿泊費等は全て院生の自己負担で行った。その後電話でフォローアップも行った。実際に養成者による運動指導が行われた。</p> <p>○4年次学生1名：東京都民ボランティアに参加し、宮城県内で1週間、がれき撤去、泥のかき出し等の活動を行なった。</p> <p>○3年次学生3名：それぞれ、いわき市、福井市、つくば市の避難所や帰省先にてがれき撤去、支援物資の仕分け、学習補助等を行なった。</p> <p>○学生支援GPのプロジェクトにより学群生・大学院生、計37名が被災地でのボランティアに参加し復旧作業を行なった。</p> <p>○つくば市や社会福祉協議会と連携しながら、つくば市民や福島県からの避難者への支援活動（がれき撤去、給水補助、お年寄りの話し相手など）を実施した。</p> <p>○本学附属図書館の蔵書250万冊のうち7割が書棚から落下し、学生ボランティアにより復旧作業を開始し行った。</p> <p>○福島県からの避難者のうち、つくば国際会議場の子供たちに向けて無償で学習指導を実施した。</p> <p>○【SAVE BARAKI】ツイッターで流れている茨城県に関する情報をまとめて流すwebサイトを運営した。</p> <p>○大学院2年次学生3名：建築家による復興支援ネットワーク「アーキエイド」主催による宮城県石巻市の浜に関する共同調査に参加。住民から被害状況と要望を聞き取り、被害状況に関するカルテと復興計画案を作成し石巻市に提出した。</p> <p>○つくば市・インテル社と連携して被災地からの避難児童・生徒に対する学習支援プログラムを7月、8月に実施した。</p> <p>○筑波大学学生団体芸術系サークル「津軽三味線倶楽部、無絃塾（部員数45名）」の学生が、平成23年8月28日（日）に、原発により避難している福島県富岡町の町民200名を牛久中央生涯学習センター文化ホールに招き、ボランティアで三味線や民謡・踊りなどを披露し、好評であった。なお、この様子は、9月23日（金）に「NHKスペシャル-のど自慢被災地からの歌声（仮題）-」にて放映される予定。</p> <p>○硬式野球部員90名が1月14日～15日宮城県山元町を訪れ、おてら災害ボランティアセンターでがれき撤去及び野球教室を行った。</p> <p>○ボランティア情報の共有・提供、他団体・他活動との交流促進、大学としての一元的な情報把握・ノウハウ蓄積を行うため、筑波大学ボランティア情報サイトを構築した。</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
関東・甲信越	筑波大学	<p>○福島県いわき市(5月28日)および宮城県石巻市(6月4日,5日)で、被災者を対象に運動教室を開き、ストレッチや軽運動を実施した。プログラムとしては、被災者同士およびサポーツスタッフとの交流を促進するために、ペアでの身体的な交流を中心にした体操を音楽に合わせて実施した。</p> <p>○1月14、15日の2日間にかけて宮城県山元町花釜地区で被災家屋の清掃活動を行った。作業は硬式野球部員80名で行った。</p> <p>http://www.nippon-foundation.or.jp/org/moyo/2011935.html(産経エクスプレス、2月6日) http://www.kahoku.co.jp/spe/spe_sys1062/20120130_10.htm(河北新聞、1月30日)</p> <p>○3回にわたり、BAMISプロジェクトサイエンスカフェにて、体育と復興支援についてワークショップおよびセミナーを実施した。(5月21日、6月27日、10月25日)</p> <p>○宮城県気仙沼市気仙沼第一小学校を視察訪問</p> <p>鹿折地区仮設住宅(3か所)にて体操教室in気仙沼を実施(のべ80人が参加)</p> <p>日本国際ボランティアセンターの活動サポートとして、気仙沼鹿折地区仮設住宅のコミュニティ形成を促進する活動として、炊き出しサポート。筑波大学体育系長谷川聖修教授ほか体育学系学生2名参加。(9月9-11日)</p> <p>○宮城県石巻市内避難所を訪問、歌いながら踊る健康体操、フリフリグッパを実施。中高年者約30人が参加。筑波大学体育系征矢英昭教授参加。(10月6-7日)</p> <p>○宮城県気仙沼市大峠山仮設住宅の中高齢者に対して呼吸法、体操教室を行った。また、その後のコミュニティ形成の一環として行う茶話会の活動支援を行った。また、日本国際ボランティアセンターの活動サポートとして、気仙沼市立鹿折小学校・公民館主催の「復幸祈念祭」について、準備進行の支援を行った。筑波大学体育系井出幸二郎助教、菊池章人研究員ほか学生3名参加。(10月7-9日)</p> <p>○宮城県気仙沼市西八幡地区仮設住宅の中高齢者・児童に対して呼吸法、体操教室を行った。また、その後のコミュニティ形成の一環として行う茶話会の活動支援を行った。また、日本国際ボランティアセンターの活動サポートとして、気仙沼市立浦島小学校筑波大学体育系井出幸二郎助教、菊池章人研究員ほか体育課科学系修士課程学生1名、トライアスロン部学生2名参加。(11月18-20日)</p> <p>○筑波大学軟式庭球部員9名と卒業生9名が、岩手県陸前高田市スポーツドームを訪問し、岩手県立高田高校女子ソフトテニス部15名を指導・交流。高田高校教諭川口倫氏、高田高校ソフトテニス部コーチで陸前高田市体育協会事務局長、一本松プロジェクト代表菅野 修氏ら3名も参加。(11月26日(土))</p> <p>○同上メンバーが、岩手県陸前高田市住田町生涯スポーツセンターを訪問し、岩手県立高田高校女子ソフトテニス部16名を指導・交流。同上の川口教諭、菅野コーチら3名、ソフトテニス部員保護者8名も参加。(11月27日(日))</p> <p>○宮城県気仙沼市にて日本国際ボランティアセンターの呼びかけにより、社協の生活支援相談員、復興支援コーディネーター、KRA(NPO)、サポートセンターのそれぞれのスタッフ総勢30名に対して、仮設住宅などで実施可能なように「なかよしラジオ体操」の指導を行う。筑波大学体育系長谷川聖修教授が参加。(12月10-11日)</p> <p>○「LIFE」メンバーにて被災地にある福島県立博物館での「会津・漆の芸術祭」への出典協力。</p> <p>○被災地(北茨城市)の小・中学校にてアニメーションワークショップの開催、及びWS活動の記録映像制作。</p> <p>○原発関連の避難者もいる喜多方市にて、空き地を利用しての祭りを企画。出店・明和電気のライブ。</p> <p>○木造仮設住宅における生活環境改善のための家具づくりワークショップを行った。(11月3日)</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
関東・甲信越	宇都宮大学	<p>○石巻市において、学生ボランティアによる避難所での炊き出し、家屋内の泥出しとして、4月28日～5月1日に学生153名が参加した。その際、職員9名を派遣した。 http://www.utsunomiya-u.ac.jp/topics/index.php?id=264</p> <p>○6月4日、5日に宮城県七ヶ浜町蔵で行われた海浜清掃作業に学生21名を派遣した。</p> <p>○7月16日～18日に、4月のボランティアに参加した学生が主体となって企画し石巻市内の民家のがれき撤去等に約140名の学生ボランティアを派遣した。 http://www.utsunomiya-u.ac.jp/topics/index.php?id=337</p> <p>○8月24日～8月30日に、岩手県釜石市および大槌町において仮設住宅入居者対象の「お茶っこサロン」(入居者の方がお茶を飲みながらくつろぐ場)の運営活動に学生11名が参加した。その際、職員1名を派遣した。 http://www.utsunomiya-u.ac.jp/topics/index.php?id=353</p> <p>○9月9日、11日に、宮城県南三陸町において被災住宅の片付け及び演奏会に混声合唱団所属の学生37名が参加した。 http://www.utsunomiya-u.ac.jp/topics/index.php?id=365</p> <p>○11月5日・6日に宮城県亘理町公共ゾーン仮設住宅にてわたりモールの運営に学生10名が参加し、教員1名が引率した。</p> <p>○11月19日～21日の大学祭(峰ヶ丘祭)において被災地応援グッズ(被災者が作ったキーホルダー、バッジ、菓子など)を販売した。</p> <p>○11月23日に、宮城県山元町において被災住宅の片付け・がれき撤去等に学生15名、教職員2名を派遣した。</p> <p>○1月15日に宮城県山元町において炊き出し及び学習支援等に学生4名、教職員2名を派遣した。</p>
関東・甲信越	群馬大学	<p>○教育学部1名(4月30日～5月4日)、社会情報学部1名(4月26日～30日)、工学研究科5名(5月4日～8日)、工学研究科1名(5月21日～5月22日)、工学研究科1名(6月11日～12日)、工学研究科1名(9月2日～7日)が仙台市を拠点として活動</p> <p>○被災地の児童生徒の教育支援(補習授業の補助)のため、教育学部教職インターンシップを活用し、宮城教育大学の協力を得て、宮城県女川町立の中学校に学生を派遣 ・8月1日～3日 教育学部4年生8名</p>
関東・甲信越	埼玉大学	<p>○学生に対し、「東日本大震災に伴うボランティア活動について」を発信、ボランティア活動に参加する際の留意事項等を整備(4月13日)し、9名の学生の届出があった。 http://www.saitama-u.ac.jp/announce/20110413-2.pdf</p> <p>○さいたまスーパーアリーナに避難している子どもに対し、サークル等で子どもの教育等にかかわっている学生が、勉強や遊びを行うボランティアを実施。</p> <p>○旧騎西高校に避難している双葉町(福島県)の小・中・高生等に対し、学生がボランティアとして学習支援やイベント等を実施。(8月23～31日)</p> <p>○学生が宮城県にてボランティア活動を行った。(8月29～31日)</p> <p>○学生が宮城県、福島県にてボランティアとして活動を行った。 ・個人宅、病院公共施設の清掃(9月11日、12日、22日、23日) ・炊き出し、物資配付、サッカー教室(11月23日) ・クリスマスイベント(イルミネーションの装飾)(12月17日、18日) ・いちご農家の復興支援(1月13日、14日) ・瓦礫の撤去処理等(2月16日)</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
関東・甲信越	千葉大学	<p>●大学企画 8/4～8/7 宮城県気仙沼市（瓦礫撤去等）教職員7名 学生31名 9/23～9/26 宮城県南三陸町（瓦礫撤去）教職員10名 学生24名 H24.2/3 福島県富岡小中学校（学校イベントへの協力）教職員12名 学生19名</p> <p>●個人活動 ○岩手県 78件（炊き出し瓦礫の撤去、泥かき） ○宮城県 889件（泥かき、家屋の清掃・片付け、小学校での学習支援） ○福島県 37件（避難所での生活支援・児童への娯楽提供、支援物資仕分け、安否確認支援）</p> <p>○千葉県内 52件 旭市 7件（土砂の撤去作業、炊き出し、支援物資配達） 佐倉市 16件（歴史的資料の搬出・整理） 千葉市 8件（支援物資の仕分け、土砂撤去、募金活動） 習志野市 1件（募金活動） 船橋市 10件（避難所での被災者受入支援、募金活動） 浦安市 8件（土砂の撤去作業、簡易トイレの配達、建物被災度調査（市役所職員の補助）） 君津市 2件（中学校にて活動報告） ○その他 13件（NPO等での募金活動、支援物資荷積みなど） （東京都・京都府）</p>
東京	東京大学	<p>○東京大学学生・教職員によるボランティア活動の報告・連絡会を開催（平成23年4月27日、6月28日、10月7日） http://www.u-tokyo.ac.jp/public/archive2011_j.html#a1 ○学生・教職員有志によるボランティア隊を被災地に派遣（平成23年8月から9月にかけて計5回。約220名が参加） http://www.u-tokyo.ac.jp/public/archive2011_j.html#272 ○ボランティア活動支援金の開設（平成23年12月6日） ボランティア活動を行う学生を支援するため、交通費または参加費の範囲内（上限2万円）で支給を開始した。 http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_02_shienkin_j.html ○陸前高田市「学びの部屋」への学習支援ボランティア活動（年末年始の期間、16名が参加） ※平成24年2月から3月にかけても実施を予定。 http://www.u-tokyo.ac.jp/public/archive2011_j.html#293</p>
東京	東京医科歯科大学	<p>○4月30日～5月4日までの間、保健衛生学科3年の2名が宮城県仙台市においてボランティア活動を行った。 ○4月17日～4月18日、4月26日～4月29日、6月4日～6月6日、6月28日～6月30日の期間、保健衛生学研究科博士後期課程3年の大学院生1名が、千葉県鴨川市において福祉避難所のボランティア活動を行った。 ○5月13日～5月21日の期間、保健衛生学研究科博士後期課程3年1名および2年1名が、宮城県石巻市において、ヘドロ除去や清掃作業などのボランティア活動を行った。 ○7月26日～7月30日の期間、保健衛生学位研究科博士後期課程1年1名が、宮城県気仙沼市において避難所における支援マニュアル作成等のボランティア活動を行った。 ○8月11日～13日までの間、保健衛生学科の教員1名が宮城県本吉郡南三陸町と石巻市において、ボランティア活動を行った。</p>
東京	東京外国語大学	<p>○東日本大震災に関するボランティア活動について、学生向けのガイドラインを作成するとともに、講習会を4～6月に実施した。9月現在、大学で把握している限りで約25名の学生がボランティア活動を行った。そのほか、学生が自主的に支援隊を結成し、大学としてはテント、ヘルメット等の物的支援を行っている。その後さらに46名の学生がボランティア活動に参加した。 http://www.tufs.ac.jp/jishin/parents/volunteer.html</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
東京	東京学芸大学	<p>・ BunB東京スポーツ文化館で避難生活している中・高校生の学習支援にあたる学生ボランティア22人を、4月25日～7月20日の間、各曜日3～4人の体制に割振り派遣した。 URL:http://www.u-gakugei.ac.jp/news/2011/04/post-58.html</p> <p>夏休み期間は中断したが、後期に入って再開し、8人の学生ボランティアが各曜日1～2人体制で9月26日～24年2月末日まで継続して学習支援を行った。</p> <p>・ 宮城県大崎市鳴子温泉地区に避難している小・中学生の学習支援・遊び・心のケア、並びに地域の文化活動などの支援にあたる学生ボランティア107人を、毎週各金曜日ごとに大学のバス（公用車）を用いて約10人を送迎、大学が現地に拠点となる宿を確保し、1週間ごとの体制で小学校や児童館などに派遣した。（7月15日～9月30日） URL:http://www.u-gakugei.ac.jp/news/2011/08/-in.html</p> <p>・ その他学生が個人的に参加したもので、把握しているものは以下のとおり。（人数の記載のないものは各1名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ NGO J L M M Iに所属し、宮城県塩釜市において、泥出し、掃除等の作業に従事。（3月28日～29日） ・ 宮城県南三陸町ベイサイド災害ボランティアセンターにおいて、ボランティアに対する活動場所の割振り等の業務に従事。（4月8日～25日） ・ 世田谷区防災ボランティアセンターに所属し、街頭募金活動。（4月9日～） ・ 東京ボランティア市民活動センターに所属し、宮城県石巻市、東松山市ボランティアセンターにおいて、がれき撤去や清掃等の作業、小学校の入学式準備作業、民家の泥よけ、家財道具の運搬、被災者のメンタル支援に従事。（4月17日～23日） ・ 岩手県山田町災害対策ボランティアセンターにおいて、社会福祉協議会の手伝い、炊き出し支援、避難所ニーズ調査、物資提供、情報収集、個人営業食堂再開の手伝い等に従事。（4月18日～27日） ・ 宮城県亘理町災害ボランティアセンターにおいて、ヘドロの撤去等の作業に従事（4月25日～28日） ・ 「被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト」に所属し、東松山市、岩沼市、多賀城市、亘理市など宮城県南の避難所において、障害者や高齢者、子どもなど社会的立場の弱い人のニーズを発見し、NPOなどの専門団体につなげ支援するプロジェクトに従事。（4月25日～5月1日） ・ 福井県災害ボランティアセンターに所属し、宮城県石巻市において、物資の配送、避難所清掃、瓦礫撤去、泥出し作業等に従事（4月28日～5月2日） ・ 大学生協ボランティアセンターに所属し、宮城県ボランティアセンターと協力して、仙台市、多賀城市、石巻市、塩竈市周辺において泥出し、家財運搬、片付け等の作業、炊き出し、子どもたちの世話等に従事。（4月30日～5月4日）2人、（5月4日～8日）2人、このほか6月26日までの間に5人。 ・ 岩手県災害ボランティアセンターに所属し、岩手県沿岸被災地において、家屋内外の片付け、泥の撤去、物資の仕分け等の作業に従事。（5月2日～5日） ・ 日本財団学生ボランティアセンターに所属し、「大学生泥かきボランティア隊」として、宮城県石巻市において、泥かき作業に従事。（5月3日～7日） ・ 東京ボランティア市民活動センターに所属し、岩手県においてがれき撤去や清掃等の作業に従事。（5月6日～9日） <p>・ 東京弁護士会（NPO法人キッズドア）が運営した、都内で避難生活している被災児童への学習・遊び支援のボランティアに3人の学生が参加（4月28日～6月末）。</p> <p>・ NPO法人寺子屋方丈舎、NPO法人東京学芸大学こども未来研究所が募集した、福島県磐梯青少年交流の家及び周辺避難所における被災児童への学習支援、遊びワークショップ等のボランティアに27人の学生が参加（6月11日～29日）。</p> <p>・ 国立青少年教育振興機構が主催した、福島の子供・生徒対象のリフレッシュキャンプボランティアに14人の学生が参加（7月22日～8月30日）。</p> <p>・ 全国大学生協連が募集した、宮城県七ヶ浜における中高生の学習支援、海浜清掃、炊き出し等のボランティアに2人の学生が参加（8月29日～9月18日）。</p> <p>・ 公益財団法人修養団（SYD）青年部が主催した宮城県石巻市におけるがれきの撤去、泥かき、写真等の清掃・仕分け等のボランティア（第2期）に9人が参加（9月30日～12月25日）。</p> <p>・ 「宮城県石巻市湊小学校を支援する東京サポート」が主催する、石巻市湊小学校での学習支援ボランティアに3人の学生が参加（1月23日～3月11日）。</p> <p>・ 公益財団法人修養団（SYD）青年部が主催した宮城県石巻市における被災家屋の清掃、泥かき、公園整備等のボランティア（第3期）に22人が参加申込（1月13日～3月18日）。</p> <p>・ 大学院2年生（手話堪能、社会福祉資格所持）が東京聴力障害者支援センターと協力して、宮城県（岩沼、石巻）の聴覚障害者のニーズ調査に協力した。</p>
東京	東京農工大学	<p>○8月末日までに2423名の学生からボランティア参加届の提出があり、被災地において炊き出し・がれき撤去・中高生の学習支援等の作業に参加したている。 ○学生が災害ボランティア活動のため、授業等を欠席する場合は、欠席扱いとしない等の配慮を行った。</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
東京	東京海洋大学	<p>○ ボランティア活動のための修学上の配慮（学生が活動期間中に授業を欠席する場合等の配慮、また、参加する学生に対する安全管理の徹底、ボランティア保険加入への指導）→学生のボランティアの届出3名</p> <p>○ 日本財団ROADプロジェクト「大学生泥かきボランティア隊」派遣の学生ボランティア募集をホームページに掲載 http://www.kaiyodai.ac.jp/news/3105/15242.html</p> <p>○ 石巻市での海岸の漁具回収、海岸沿いの民家の片付け、土砂や瓦礫の撤去等の活動に主に夏休み中、学生ボランティアが参加。（延べ17名参加）</p> <p>○ 海洋科学部の海洋科学教育学術支援財団による学生ボランティア支援活動により、8月22～26日に山田町および「鯨と海の科学館」施設の復旧作業を支援した。（7名参加） http://www.kaiyodai.ac.jp/Japanese/shienzaidan/news/110817.html</p> <p>○ 同財団により、9月23～10月2日の間に第2回目の活動を支援した。（22名参加） http://www.kaiyodai.ac.jp/Japanese/shienzaidan/news/110912.html</p>
東京	お茶の水女子大学	<p>○条件付きで推奨している。</p> <p>○ミサンガ袋詰めや仮設住宅訪問等のボランティア活動にあたる学生5人を気仙沼市に派遣（平成23年12月3日～4日）</p> <p>○仮設住宅での餅つき大会ボランティア活動に参加する学生6人を会津若松市に派遣（平成23年12月9日～10日）</p>
東京	電気通信大学	<p>○授業に影響のない範囲で活動することは認めた。</p> <p>○学生が被災地へのボランティア活動に個人で参加した（2名）。</p> <p>○福島県いわき市、双葉町などから調布市の味の素スタジアム避難所に避難した小中高生に対して、学習室に教材、器材、文房具を配備し、学生ボランティア20名、教員4名を派遣し、個別指導的な学習支援を行った。（3月28日～4月16日）</p>
東京	一橋大学	<p>○本学の学生サークルである一橋大学チーム・えんのしたと社会学研究科の猪飼周平准教授が共同で、宮城県南三陸町の子どもに絵本・児童書・紙芝居などの支援を行うプロジェクトを企画、実行した。本はツイッター、メール等で募集し、約3000冊を集めた。現地入りしたのは、猪飼准教授、えんのしたの綾・渡辺、保育士二名の計五名で、4月13日～4月17日の計五日間支援を行った。現地では、1）小学校長・保育所長の情報、2）地域の未就学児童の居場所を知る顔役からの情報、3）子どもをもつ親からの情報を活用して、個別訪問を軸に絵本を配布した。</p> <p>○学生の個人参加による被災地での清掃作業、仮設住宅地での学習支援等について夏季休業を利用して実施した。</p> <p>○被災地においてボランティア活動に参加する本学学生（学部学生・大学院生）を支援するため、参加費用（宿泊費・交通費・ボランティア保険料）の一部を援助することとした。 URL：http://www.hit-u.ac.jp/function/outside/news/2011/0825.html</p>
東京	政策研究大学院大学	<p>ボランティア活動について、学修に影響が無いと判断された場合に事前に大学に届け出ることにより、欠席扱いとしない等の措置について定めている。</p> <p>現在のところ、上記によるボランティア活動への参加の届け出はない。</p> <p>なお、個人的に休日等を利用しボランティア活動に参加している学生がいるが、実際の活動については、休日等の活動であるために把握できない。</p>
関東・甲信越	横浜国立大学	<p>○ボランティア活動に参加を希望する学生に対し、自己の安全を最優先すること、必ずボランティア保険に加入すること等の留意点を示し、常に大学と連絡が取れるよう、届け出をさせるようにした。（届出者 23名）</p>
関東・甲信越	新潟大学	<p>○新潟県内の避難所で生活する被災者の方々に次のようなボランティア活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園から中学生までを対象とした学習支援を行った。 ・健康維持のため、ウォーキング指導や子供向けの体操教室等を行った。 ・落語研究部が寄席を開いた。 ・子供を対象に工作教室を行った。

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
関東・甲信越	長岡技術科学大学	<ul style="list-style-type: none"> ・福島県相馬郡新地町でのボランティア活動を実施（3日単位） 4月22日～4月24日 4月26日～4月28日 4月29日～5月1日 5月2日～5月4日 5月5日～5月7日 (2日単位) 5月21～5月22日 6月4日～6月5日 7月9日～7月10日 宮城県山元町でのボランティア活動 11月19～20日
関東・甲信越	上越教育大学	<ul style="list-style-type: none"> ○上越教育大学学校教育学部授業科目「ボランティア体験」における自然災害に伴うボランティア活動に関する取扱要項（H23.6.15学長裁定）を整備 ○国立大学法人上越教育大学の東日本大震災に関する支援活動方針（H23.6.21学長裁定）を策定 ○東日本大震災の支援活動に伴う学生・職員ボランティアを募集（6月29日） 【登録人数：職員7人，学生7人】 ○子どもの学び支援ポータルサイト「支援の提案情報」登録（6月30日） ○学部4年生12人が宮城県亘理郡山元町にてボランティア活動（8月2日） ○JTBとの共同企画による被災地（宮城県）ボランティア日帰りバスツアーを実施 第1回8月20日参加人数：学生8人，教職員9人，一般14人，合計31人 第2回9月3日参加人数：学生33人，教職員10人，一般12人，合計55人 第3回12月17日参加人数：学生44人，教職員10人，一般12人，合計66人 ○被災地ボランティア日帰りバスツアー(9/3)参加学生（学部1年生1人，学部2年生2人）が学部授業「ボランティア体験」の履修時間認定を申請
関東・甲信越	山梨大学	<ul style="list-style-type: none"> ○共同ボランティア活動団体が、5月13日からボランティアバスの運行をする予定であり、これについて学生に周知。 ○ボランティア活動を最長5日間(休祭日を除く)とし、講義を欠席した場合、補習等を実施し不利にならないように扱うことを教授会において決定。(医学部) ○大学院生1名が自治労東京都本部のボランティア活動に参加。福島県相馬市にて看護師・保健師として活動。(5月7日～17日) ○医学部医学科生1名がボランティアインフォの活動に参加。宮城県内のボランティア募集团体を訪問し、ボランティア募集のサポート活動を実施。(8月13日～20日)
関東・甲信越	信州大学	<ul style="list-style-type: none"> ○学生による被災地でのボランティア活動への参加に向けた体制の整備 http://www.shinshu-u.ac.jp/current/topics/2011/04/post-234.html ○学生による被災地でのボランティア活動 経済学部生1名(4/15～4/24)，理学部大学院生1名(4/29～5/7)，医学部生(20名3/22～栄村で活動)，学部生5名・大学院生1名(5/3～5/8，人文学部1名，経済学部1名，理学部2名，工学部1名，教育学研究科1名)，理学部生1名(5/6～5/8)，繊維学部生1名(4/1～3/31 休学期間利用)，繊維学部生1名(5/1～9/30 休学期間利用) 農学部151名(4月末～7月中旬 延べ人数)，経済学部生3名(5/4～5/8)，繊維学部生1名(5/14～5/21)，農学部大学院生1名(4/10～5/8)，農学部大学院生2名(4/29～5/5)，教育学部生1名(7/23～7/24)，繊維学部生1名(1/13～1/21)
東海・北陸	富山大学	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア活動の手続きや修学上の配慮について周知(4月26日) ○富山県と連携し富山県派遣のボランティア活動へ学生を派遣(4月27日～) ※12月末までに6026名の学生を派遣 ○職員が災害ボランティアへ参加(8月31日～9月2日)

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
東海・北陸	金沢大学	<ul style="list-style-type: none"> ・HPを活用してボランティア活動に関する留意点等、情報提供を行った ・ボランティア参加の講習会を開催した(4月25日, 6月6日, 8月10日, 11月8日) ・ボランティアグループ「灯」が米沢市で足湯を実施(4月29~4月30日) ・学生が仙台市等でボランティア活動に従事(5月3~5月10日) ・ボランティアグループ「灯」が陸前高田市で足湯, 炊き出し, 海岸清掃を実施(5月13~5月16日) ・ボランティアグループ「灯」が陸前高田市でボランティア活動に従事(5月3日~5月10日, 実施主体: コープ石川) ・ボランティアグループ「灯」が陸前高田市で足湯, 海岸清掃を実施(6月10日~6月12日) ・ボランティアグループ「灯」が陸前高田市でボランティア活動に従事(5月3日~5月10日, 実施主体: コープ石川) ・ボランティアグループ「灯」が陸前高田市で足湯, 瓦礫撤去を実施(7月1日~7月3日) ・ボランティアグループ「灯」が陸前高田市でボランティア活動に従事(7月8日~7月10日, 実施主体: コープ石川) ・学生が陸前高田市でボランティア活動に従事(7月15日~7月18日, 実施主体: 石川県ユネスコ協会) ・学生が陸前高田市でボランティア活動に従事(7月20日~7月24日) ・学生が気仙沼市でボランティア活動に従事(8月19日~8月22日, 実施主体: 石川県ユネスコ協会) ・ボランティアグループ「灯」が陸前高田市で足湯, 瓦礫撤去を実施(8月21日~8月24日) ・学生が仙台市等でボランティア活動に従事(9月6日~9月11日) ・学生が七ヶ浜町でボランティア活動に従事(8月19日~8月22日, 実施主体: 全国生協) ・ボランティアグループ「灯」が陸前高田市で足湯, 瓦礫撤去を実施予定(9月20日~9月23日) ・学生が気仙沼市でボランティア活動に従事(9月23日~9月26日, 実施主体: 石川県ユネスコ協会) ・ボランティアグループ「灯」が陸前高田市で足湯, 瓦礫撤去等を実施(11月18日~11月20日) ・ボランティアグループ「灯」が陸前高田市で足湯, 瓦礫撤去等を実施(12月21日~12月23日) ・金沢大学学生ボランティアさぼーとステーションが足湯, 瓦礫撤去等を実施(1月20日~1月22日) ・金沢大学学生ボランティアさぼーとステーションが足湯, 瓦礫撤去等を実施(2月19日~2月21日) <p>金沢大学学生ボランティアさぼーとステーションとは 本学におけるボランティア活動を志す学生のとりまとめや学内外からのボランティア派遣要請の受け入れ窓口を行う組織であり, 平成24年1月から本格的に活動を開始した。</p>
東海・北陸	福井大学	<ul style="list-style-type: none"> ○福井県災害ボランティアセンター連絡会が行う岩手県へのボランティア派遣に参加 (3月19日~4月1日: 医学部学生1名) (3月29日~4月2日: 医学部学生2名) (4月24日~29日: 医学部学生1名) (5月2日~6日: 医学部学生8名) (6月5日~9日: 教育地域科学部学生1名) (6月20日~24日: 工学部学生1名) (7月15日~18日: 工学部学生1名) (8月26日~29日: 医学部学生1名) (8月29日~9月2日: 医学部学生15名) (9月12日~16日: 医学部学生8名) ○NPO法人TICO(徳島県)及びNPO法人フェアトレード東北(宮城県)と連携した石巻市及び東松島市でのボランティア活動に参加 (4月29日~5月5日: 医学部学生1名) ○宮城県でのボランティア活動に参加 (6月9日~12日: 工学部学生15名, 工学研究科学生1名) (6月13日~18日: 工学部学生8名) (6月17日~20日: 工学部学生1名) (7月29日~8月3日: 医学部学生1名) ○福井県大学連携リーグが行う岩手県へのボランティア派遣に参加 (8月9日~12日: 教育地域科学部学生1名, 工学部学生7名, 工学研究科学生2名) (8月23日~26日: 医学部学生7名, 工学部学生3名, 工学研究科学生1名)

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
東海・北陸	岐阜大学	・希望者は、学生支援課に相談することとしている。（実績4件あり）
東海・北陸	静岡大学	<p>○震災直後の被災地では安全面・健康面の確保が十分に行えないため、自粛を要請した。（3月18日）</p> <p>○教員(1名)及び学生(5名)が避難所へのPC・ネット環境の提供・利用支援活動、及び災害ラジオウェブサイト提供とサポート活動等の情報支援活動を行った。（4月6日～5月8日／宮城県山元町）</p> <p>○HPにて学生ボランティア（静岡県社会福祉協議会）の情報提供を行った。（4月20日）</p> <p>○HPを活用して学生ボランティア活動における留意点等、情報提供を行った。（6月20日）</p> <p>URL:http://www.shizuoka.ac.jp/th_earthquake/eq20110315_svo.html</p>
東海・北陸	浜松医科大学	<p>学生2名が宮城県気仙沼市においてボランティアに参加（4月23日～26日）</p> <p>学生2名が宮城県石巻市においてボランティアに参加（4月29日～5月5日）</p> <p>学生1名が宮城県石巻市においてボランティアに参加（7月7日～10日）</p> <p>学生5名が宮城県気仙沼市においてボランティアに参加（7月19日～23日）</p> <p>学生1名が宮城県仙台市、角田市においてボランティアに参加（9月22日～25日）</p> <p>学生1名が岩手県陸前高田市においてボランティアに参加（9月23日～25日）</p> <p>学生4名が宮城県南三陸町においてボランティアに参加（12月20日～24日）</p> <p>学生1名が福島県南相馬市においてボランティアに参加（1月4日～8日）</p> <p>学生1名が福島県南相馬市においてボランティアに参加（1月4日～7日）</p>
東海・北陸	名古屋大学	<p>1. ボランティア参加希望者に対して、活動の心得、ボランティア保険、現地受け入れ状況、生協・NPOによるグループ参加などについて、ガイダンスと情報提供を行った。</p> <p>2. 名古屋における後方支援ボランティアの紹介・調整を行った。</p> <p>ボランティア活動に行くため授業を欠席する学生に対しては、以下のとおり対応する</p> <p>(1) 1週間程度の欠席については、不利益とならないよう教育的な措置をとる。</p> <p>(2) 一部の実習科目、セミナーでボランティア活動に対して単位を与える。</p>
東海・北陸	愛知教育大学	<p>○復興支援ボランティアを募集し、現在140名以上が登録している。現在、夏季休業中におけるボランティア派遣に向けて、実施方法等を検討中である。また、被災地を訪れる学生は、必ず事前に学生支援課まで活動予定等を連絡するように指示しており、現在、1名の学生が5月から休学し、家族でボランティア活動に従事している。</p> <p>○教育復興支援ボランティアとして、8/8～12に学生7名を南三陸町へ、8/16～21に学生5名を気仙沼市へ派遣した。また、9/5～9に学生1名を岩沼市へ派遣した。なお、今後も教育復興支援ボランティアを継続する予定であり、引き続き、学生のボランティア登録を受け付けている。</p> <p>○春季休業中におけるボランティア派遣について、宮城教育大学と連携しニーズ等を調整中。</p>
東海・北陸	名古屋工業大学	<p>○ボランティア活動希望者の登録を受け付け、これまで30人が登録し、うち6人の学生が被災地でのボランティア活動に参加した。</p> <p>URL:http://www.nitech.ac.jp/other/anti_disaster_07.html</p>
東海・北陸	豊橋技術科学大学	<p>○学生ボランティアサークルが被災地に行かずにできる活動として、豊橋駅前で義援金の募集活動を実施。</p> <p>○本学留学生による義援金募集活動を実施。</p> <p>○学生ボランティアサークルが宮城県岩沼市で復興支援ボランティア活動を実施。（5月2日～5日）</p> <p>○学生ボランティアサークルが宮城県南三陸町でボランティア活動を実施（9月11日～15日）</p> <p>○学生2名が岩手県宮古湾にてボランティア活動（10月8日～10日）</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
東海・北陸	三重大学	<p>○被災地のボランティアセンター運営業務の支援のため、学部生1名が岩手県山田町に県の団体の一員として参加（4月28日～5月4日）</p> <p>○被災地のカウンターパートと共に学部学生1名が福島市及びいわき市で活動（4月29日～5月6日）</p> <p>○被災地での家屋片付け、給水手伝い、炊き出し等に従事するボランティア活動に、3名の学部生が陸前高田市、気仙沼市で参加（4月30日～5月9日）</p> <p>○被災地の小学校教諭と学校薬剤師への支援のため院生1名が三重県薬剤師会からの要請を受け福島市他で活動（5月6日～5月10日）</p> <p>http://www.mie-u.ac.jp/activity/contribution/volunteer.html</p> <p>○官民協働運営の「みえ災害ボランティア支援センター」が企画するボラパック（岩手県山田町でのボランティア活動）に28名が参加し、その他の団体による活動に延べ3名が参加している。</p> <p>○美し国おこし・三重さきもり塾（大学院の特別の課程生）の塾生及び卒業生（美し国おこし・三重さきもり倶楽部会員）2名が官民協働運営の「みえ災害ボランティア支援センター」が企画するボランティア活動（岩手県山田町）に参加し、その他の団体による活動に2名が参加している。</p> <p>○官民協働運営の「みえ災害ボランティア支援センター」が企画するボラパック（岩手県山田町でのボランティア活動）に6名が参加した。</p>
東海・北陸	北陸先端科学技術大学院大学	全学生に対し、メールにて、ボランティア保険の加入先を通知し、震災地域へ移動する場合は、事前に届け出るよう指導。
近畿	滋賀大学	<p>○ボランティア活動に参加する場合は、事前に大学の窓口に届けた上で、ボランティア保険に加入して行う体制になっている。16名の学生が宮城県・岩手県での活動を届け出、うち、申請のあった5名についてボランティア活動の単位を認定した。</p> <p>http://www.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=35:3</p>
近畿	滋賀医科大学	○13名が自主的に活動した。 7.25～7.29 1名が参加。（計14名）
近畿	京都大学	<p>・被災地でのボランティア活動への参加については、大学への届出及び保険加入を義務付けたいうえで参加を認めている</p> <p>URL:http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/news_data/h/h1/news5/2011/110415_1.htm</p> <p>・本学学生ボランティア73人が被災地にて活動</p> <p>・東北復興支援 京都大学学生ボランティアの派遣（21人）</p> <p>URL:http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/news_data/h/h1/news7/2011/110830_1.htm</p>
近畿	京都教育大学	<p>○被災地ボランティアに参加する学生には、大学に事前の届出及び終了後の報告を行うことなどを義務づけている。ボランティア活動期間は、半期につき2週間以内とし、その間の授業の欠席について履修上不利とならないよう配慮を行っている。</p> <p>○学生7名が、ゴールデンウィーク期間を中心に、大学生協ボランティアセンター等を通じて参加した。</p> <p>○8月末時点で、夏季休業期間を中心に13名が参加した・参加予定。（うち5名は宮城教育大学教育復興支援センター、その他は大学生協ボランティアセンター等を通じて参加。）</p>
近畿	京都工芸繊維大学	学生が個人的に京都災害ボランティア支援センターの募集する「被災地支援活動ボランティア」に参加し、宮城県気仙沼市大島にて民家の泥だし、瓦礫撤去を行った。（8/26～8/29）
近畿	大阪大学	<p>○被災地での学生のボランティア活動の参加に際しての手續等を周知</p> <p>○被災地での学生のボランティア活動の参加に際しての修学上の配慮について周知</p> <p>○ボランティア活動に関する説明会（4/13（水）、5/25（水）、7/14（木）、8/5（金）の4回）を実施</p> <p>○学資負担者学生支援組織の支援による岩手県へのボランティアバスの運行（8/25～8/29、8/31～9/6）</p> <p>○ボランティア活動参加学生団体主催・学生部他後援によるボランティア活動への理解と普及等を目的とした報告会の開催（10/15、1/28 参加対象：学生・教職員（他大学を含む）、一般）</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
近畿	大阪教育大学	<p>○大阪教育大学東日本大震災復興支援対策委員会を設置し、学生・教職員がボランティア活動を行うための体制を検討している。</p> <p>○宮城教育大学と連携し、宮城県内の中学校・高等学校5校に学生31名を派遣</p> <p>○特別支援教育教員養成課程の学生5名が、岩手県での被災障害児支援及び被災障害児家族のレスパイトケアに従事</p>
近畿	兵庫教育大学	<p>・4月27日に、これまでに2回にわたって震災ボランティアに参加した学部学生による報告会「ボランティア経験者が、東日本震災の現状を語る！-いま我々ができること、すべきことは!?-」を学生及び教職員を対象に開催した。</p> <p>・ボランティア活動に参加する学生のためにボランティア保険に大学が加入することにより、学生がボランティアに参加しやすい環境を整備した。</p> <p>・学生のボランティア活動について、大学として次のとおり体制を整え、学生に周知を図った。</p> <p>①ボランティア関連サイトの情報を提供し、学生が的確に情報を把握できるよう対応した。</p> <p>②学生がボランティアに参加する場合に、安全確保や動向把握のためにボランティア活動届をクラス担当教員もしくは指導教員に確認印をもらった上で学生支援課に提出することとした。</p> <p>③ボランティアに参加する学生が、ボランティア保険に加入する経費を大学で負担することとした。</p> <p>④教務上の注意として、欠席届の提出やボランティアの単位化に関する情報提供を行った。</p> <p>⑤ボランティア参加に関する留意事項を掲載し、周知を図った。</p> <p>・学生ボランティア派遣検討WGを立ち上げ、東日本大震災に伴う学生ボランティア派遣計画を策定し、平成23年度、24年度の2ヶ年度に渡り、本学の教育・研究活動の特性を生かし、被災地の学校の学習環境整備、学習支援を中心に、夏季休業期間中にボランティア活動を行うこととした。平成23年度は8月8日（月）から8月12日（金）の期間、教職員2名の引率のもと、学部学生6名、大学院生19名がボランティア活動に参加した。当該活動では、宮城県石巻市内で、横浜市立学校の教員と協働して、「学習支援活動」に2日間、石巻市災害ボランティアセンターでの「災害ボランティア活動」に1日をそれぞれ従事した。なお、本活動は学部授業科目の「社会ボランティア体験学習」（担当：森田啓之准教授）での30時間のボランティア活動に充当可能として対応した。</p> <p>また、10月6日（木）には、東日本大震災兵庫教育大学学生ボランティア報告会を開催し、約70名の参加者があった。なお、報告は、ボランティア活動に参加した学生25名のうち代表者4名による報告を行った。</p> <p>・6月30日に、東日本大震災に係るボランティアに伴う授業の取扱いを定め、学生が欠席した授業については、可能な代替措置（補講又はレポート等）を行うことにより、履修上不利とならないように配慮することとした。</p>
近畿	神戸大学	<p>○ボランティア活動を届出制とすると共に、本震災に伴う授業の公欠制度を導入</p> <p>○本学の学生ボランティアバスによる活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生23名参加（4/30-5/8） ・学生18名参加（4/28-5/5） ・学生16名参加（6/28-7/5） ・学生20名参加（8/16-8/23） ・学生10名参加予定（8/31-9/5） ・学生20名参加（9/8-9/15） ・学生48名参加（11/22-11/29） <p>○その他、大学以外の団体による活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生延べ39名参加 <p>○ボランティア活動による休学学生 3名（3名共に10月復学）</p> <p>○チャリティコンサート活動「はこべ・プロジェクト」（4/29）学生22名参加</p>
近畿	奈良教育大学	<p>○被災地等でボランティア活動を行う学生への修学上の配慮として、授業に係る補講の実施、レポートによる学修の補充・評価等を行うことを決定した。（現時点では、直接の被災地での活動は行われていない。）</p> <p>○震災ボランティア研修会を開催（5月11日）、学生、教職員ら約80名が参加。 講師：長友学長「福島第一原発事故と放射線の影響」、市来准教授「子どものこころの理解とケア」</p> <p>○学生1名が宮城県等におけるNPOのボランティア活動に個人的に参加（6月4日～10日）</p> <p>○宮城県気仙沼市への奈良市災害支援ボランティアバスに学生2人が参加（4月29日～5月3日1人、5月1日～5月5日1人）</p> <p>○宮城県気仙沼市への奈良県災害ボランティア隊に学生1人が参加（6月9日～6月13日）</p> <p>○宮城教育大学教育復興支援センターとの連携の下、学習支援にあたる学生ボランティア8人を宮城県七ヶ浜町及び大崎市に派遣（7月30日～8月6日） http://www.nara-edu.ac.jp/ADMIN/SECRETARY/23vol_haken_1.html</p> <p>○宮城教育大学教育復興支援センターとの連携の下、学習支援にあたる学生ボランティア6人を宮城県岩沼市に派遣（9月10日～9月17日）</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
近畿	奈良女子大学	<p>○大学として3週間を上限として、ボランティア活動を公欠としてみとめる制度を設け、2月末日現在、13件の活動届出があった。</p> <p>○附属中等教育学校の生徒会から2名、8月に陸前高田市でボランティア活動を行った。</p> <p>○〈共に生きる〉女子大学ネットワークin関西の活動の一環として、学生5名が、岩手県釜石市只越町商店街にて復興支援を行った。（平成23年12月26日～29日）主な活動は、学内や地域の商店街から寄付された物資を届け、現地の仮設商店街内でのイベントの実施や商店街でのニーズ調査。</p> <p>活動内容参考：http://www.nara-u.ac.jp/iec/index/reports/tomonikiru_report(11_1226).html</p>
近畿	和歌山大学	<p>○大学院生2名・学生1名・教員2名が被災地でボランティア活動に従事した。</p> <p>○和歌山大学東日本大震災ボランティアバスプロジェクト実行委員会主催によるボランティアバスを運行。陸前高田市災害ボランティアセンターを拠点に活動（参加者：学生44名、教員3名、職員4名）</p>
近畿	奈良先端科学技術大学院大学	<p>○学生が自発的にボランティア活動に参加（4月7日～10日）</p> <p>○留学生が自発的にボランティア活動に参加（8月26日～29日）</p>
中国・四国	鳥取大学	<p>○避難所における救援支援物資の提供を行うため、学生ボランティア2人が宮城県東松島市にて活動（4月8日～10日）</p> <p>○被災地における泥出し、家財運搬等を行うため、学生ボランティア2人が宮城県東松島市にて活動（5月21日～22日）</p> <p>○被災地の仮設住宅入居者に対する世帯情報の入力、高齢者への訪問と現況調査するため、学生ボランティア1人が岩手県釜石市にて活動（6月26日～7月9日）</p> <p>○被災家屋等の片付け、清掃、泥出し等を行うため、学生1人が宮城県石巻市にて活動（7月20日～22日）</p>
中国・四国	島根大学	<p>○被災地でのボランティア活動については、事前に大学へ届け出るよう指導</p> <p>○本学独自に支援活動を実施したもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 畑の整備、拾得物の清掃にあたる学生ボランティア10人を宮城県気仙沼市に派遣（8月25日～9月2日） <p>○NPO法人等の活動に加わり支援活動を実施したもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ がれきの撤去、家屋の片付け、泥かき作業等のため学生7名が宮城県石巻市で支援活動実施（4月30日～5月5日） ・ 子供が楽しめるようなイベント活動、泥かき作業等のため学生2名が宮城県東松島市で支援活動実施（7月22日～24日） ・ 児童デイケアのため学生1名が宮城県仙台市で支援活動実施（8月21日～26日） ・ がれきの撤去、家屋の片付け、泥かき作業等のため学生1名が宮城県石巻市周辺で支援活動実施（8月25日～27日） ・ 震災跡地の片付け等のため学生1名が宮城県東松島市で支援活動実施（8月28日～9月2日） ・ がれきの撤去、家屋の片付け、側溝の泥出し作業等のため学生1名が宮城県本吉郡南三陸町で支援活動実施（2月18日～22日）
中国・四国	岡山大学	<p>学生によるボランティアについては、事前に登録を行い実施するようにルール化した。</p> <p>7月初旬に、夏季休業等を利用して、被災地支援のボランティア活動に参加を希望する学生のためにホームページに「災害ボランティア活動を考えている皆さんへ」を掲載した。2月末現在、29名の学生が被災地でボランティア活動を行った。</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
中国・四国	広島大学	<p>○学生ボランティアについては、実際に届け出のあったのは46人（2月末日現在） ※学生ボランティアについては登録窓口を設置（3月14日）している。 https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/life/earthquakedisaster.html</p> <p>○広島大学震災復興支援ボランティア「OPERATIONつながり」の「つながり隊」1次隊として、学生23名が、災害復興支援団体「L&D仙台」（大学生中心のボランティア団体）と連携し、仙台市内において被災者支援活動（子供への学習支援、清掃、ブース別・国際交流等）を実施した。「広島大学東日本大震災復興支援ボランティア計画」に基づき、交通費（バス借上）や活動経費等（宿泊費の一部補助を含む。）約138万円を、「広島大学基金」から支弁。（派遣期間：9月14日～9月20日）</p> <p>○2次隊として学生26名（うち留学生5名）を派遣、仙台市、岩沼市、巨理郡巨理町の仮設住宅において傾聴やお手伝い、交流会の開催、学習支援を行うとともに、復旧作業、泥かき、雑草除去などを実施した。交通費等約105万円を、「広島大学基金」から支弁。（派遣期間：12月1日～12月8日）</p> <p>○3次隊として学生14名を派遣、東北大学川内北キャンパスで学生シンポジウム（今、ほくたちができること～広島大学の学生と震災復興を考えよう～）を開催するとともに、仙台市、岩沼市、名取市、巨理郡巨理町の仮設住宅において傾聴やお手伝い、交流会の開催、学習支援などを実施した。交通費等は、「広島大学基金」から支弁予定。（派遣期間：平成24年2月14日～2月24日）</p> <p>○4次隊として学生を仙台市等へ派遣、名取市の仮設住宅において傾聴やお手伝い、交流会の開催、学習支援などを実施予定。（派遣期間：平成24年3月10日～3月19日） http://www.hiroshima-u.ac.jp/top/intro/shinsaishien/volunteer/</p>
中国・四国	山口大学	<p>○8月31日現在、復興ボランティアに参加し届出のあった学生は計14名（春休み1名、GW期間11名、その他は土日）</p> <p>○夏季休業中にボランティアを検討している学生は5名程度（結果については、学生から報告なし）</p> <p>○9月以降にボランティアに参加した学生は5名であった。</p> <p>○3月にボランティアを検討している学生は5名程度。</p>
中国・四国	徳島大学	<p>○学生のボランティア活動の実施（修学上の配慮も含む）について、ホームページに掲載 URLhttp://www.tokushima-u.ac.jp/tohoku_earthquake_disaster.html</p> <p>○NPO法人と連携して避難所での健康状態、ニーズなどの聞き取り調査及び家屋内に堆積している泥の撤去作業にあたる学生ボランティア12人を石巻市及び東松島市に派遣（4月29日～5月5日）</p> <p>○民医連による塩釜市・多賀城市の避難所での医療活動の手伝いにあたるボランティアとして2人が個人的に参加（4月29日～5月3日、5月1日～5日）</p> <p>○被災した学校や家屋の泥かき、がれきの撤去、清掃など、ボランティアとして13人が参加（5月連休～8月末日）</p> <p>○宮城復興支援センターの協力を得て、南三陸町や仙台市において支援物資の整理、仮設住宅の生活支援、物産店の接客・販売などにあたる学生ボランティア9人を同センターに派遣（9月4日～14日）</p> <p>○社会貢献共同体ユナイテッド・アースの活動に学生1名が参加し、南三陸町周辺においてキッズサポート、ボランティアサポート（料理、洗濯、掃除）等のボランティアとして活動（12月24日～12月30日）</p>
中国・四国	鳴門教育大学	<p>○学生8名（延べ9回）が被災地域（宮城県石巻市、福島県いわき市等）へ出向き、ボランティア活動を実施。このほか1名が被災地域の子どもを招へいするボランティア活動に参加。</p>
中国・四国	香川大学	<p>○4年生1名が、香川県社会福祉協議会の災害ボランティアの1員として、石巻市災害ボランティアセンター地で讃岐うどん・お菓子等を被災者に配付して激励した。（4月14日～4月20日）</p> <p>○学生3名・卒業生1名が、支援物資（食料・飲料・生活雑貨等）を自分達で準備して、宮城県郡山元町・巨理町・牡鹿郡女川町の被災者に届け、現地の実情を見聞きして、何が必要なのか、今後の活動のために現地とのつながりを作る等を目的として活動（4月7日～4月11日）</p> <p>○医学部学生3名が、宮城県の避難所における健康状態、ニーズなどの聞き取り調査・傾聴、家屋内に堆積している泥の撤去作業を実施（4月29日～5月5日）</p> <p>○チーム香川STUDENTS（香川大学医学部学生ICLS勉強会を中心とした災害医療に関心のある学生有志）の医学部生5名、経済学部生1名が石巻市において、在宅避難民への傾聴、聞き取り調査、配給の補助を行った。（8月10日～8月12日）</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
中国・四国	愛媛大学	<p>○「学生による東日本大震災被災地でのボランティア活動」の取扱いを定め、授業欠席等について配慮する措置を講じた。約61名の学生が被災地でのボランティア活動実施。</p> <p>○学内に拠点をおくNPO法人愛媛アカデミアが内閣府支援による地域インターンシップを被災地に振り向けることにより、企業支援ボランティアとしてのべ48名の学生を派遣した。</p> <p>○工学部環境建設工学科として、7月3日～16日の間教員5人、学生38人を岩手県に派遣し、被害調査、ボランティア活動、および陸前高田市における災害インターンシップを行った。</p>
中国・四国	高知大学	<p>○東日本大震災に伴う学生のボランティア活動に関しての方針を決定した。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出発前：計画書及び保護者の承諾書を提出させる。帰学後：活動終了届を提出させる。 ・ボランティア保険等への加入（保険料は大学負担）を義務付ける。 ・ボランティア活動は原則2週間以内とし、その間の授業は特例欠席として扱う。 ・授業科目の目的と密接に関わる場合は、授業担当教員の判断でボランティア活動を単位として認定することができる。 <p>○大学からのボランティア学生の派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福島県いわき市（5名）：引越し手伝い、被災家屋片づけ 8月18日～8月24日（活動期間8月19日～8月22日、8月23日は被災地視察・学校訪問） <p>○学生の自主的なボランティア活動への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮城県気仙沼市（2名）：物資仕分・被災家屋片づけ・移送等 4月29日から5月9日（うち活動期間4月30日から5月8日） ・宮城県東松山市（1名）：がれき・汚泥の撤去等 4月29日から5月5日（うち活動期間5月1日から5月4日） ・宮城県石巻市（1名）：がれき・汚泥の撤去、炊出し 6月15日から6月19日（うち活動期間6月15日から6月18日） ・宮城県登米市（6名）：病院業務補助 7月30日～8月6日（活動期間7月31日～8月6日） 7月31日～8月8日（活動期間7月31日～8月8日） 8月13日～8月21日（活動期間8月14日～8月20日） 8月14日～8月20日（活動期間8月14日～8月20日） 8月14日～8月22日（活動期間8月14日～8月22日） 8月20日～8月28日（活動期間8月21日～8月27日） ・宮城県本吉郡南三陸町（3名）：医療スタッフの業務支援 8月13日～8月21日（活動期間8月14日～8月20日） 8月14日～8月20日（活動期間8月15日～8月20日） 8月21日～8月27日（活動期間8月21日～8月27日） ・宮城県石巻市（1名）：被災家屋片づけ、野菜マーケット・リサイクルマーケットの運営等 8月14日～8月24日（活動期間8月15日～8月24日） ・宮城県登米市（1名）：救援物資の整理、泥出し、炊出し 8月17日～8月21日（活動期間8月18日～8月20日） ・宮城県登米市（1名）：外来・病棟業務補助 8月26日～9月2日（活動期間8月28日～9月2日） ・宮城県石巻市（1名）：動物の世話、広報、物品管理等 8月31日～9月11日（活動期間9月1日～9月10日） ・宮城県登米市等（1名）：がれき撤去 9月9日～9月19日（活動期間9月12日～9月16日） ・宮城県東松山市、石巻市（1名）：除草作業、仮設住宅物資配給、泥かき 9月17日～9月21日（活動期間9月18日～9月20日） ・宮城県気仙沼市（2名）：がれき撤去、泥出し、清掃等 9月20日～9月26日（活動期間9月22日～9月24日） ・岩手県陸前高田市（1名）：がれき撤去 9月22日～9月26日（活動期間9月24日～9月24日） ・岩手県釜石市（1名）：高圧洗浄機による洗浄、がれき撤去 9月26日～10月3日（活動期間9月28日～9月29日） ・岩手県陸前高田市（1名）：がれき撤去、炊出し 10月7日～10月17日（活動期間10月9日～10月15日） ・岩手県釜石市、陸前高田市（2名）：施設清掃、がれき撤去、仮設住宅住民への足湯提供 10月29日～11月4日（活動期間10月31日～11月2日） ・宮城県仙台市（1名）：ビニールハウス 10月30日～10月31日（活動期間10月30日～10月31日） ・宮城県石巻市（1名）：仮設住宅訪問ケア 12月8日～12月18日（活動期間12月10日～12月17日）

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
九州	福岡教育大学	<p>○学生1名が社会人2名とともに個人的にボランティア活動に参加した。</p> <p>○「宮城教育大学教育復興支援センター」と連携し、被災地の小中学生を対象とした教育支援ボランティアとして、自学自習への支援に5名の学生が参加した。</p> <p>○学生3名がそれぞれ個人的にボランティア活動に参加した。</p> <p>○学生2名がそれぞれ個人的にボランティア活動に参加した。</p> <p>○平成24年3月から、「宮城教育大学教育復興支援センター」と連携し、学校支援ボランティアとして、学生を派遣する予定。</p>
九州	九州大学	<p>・ボランティア活動に関する文部科学副大臣通知(H23.4.1)を踏まえ、九大の運用指針を以下のとおりとした。</p> <p>1) 各学部、学府等の判断により、ボランティア活動を希望する学生については、教育研究上支障がない場合に限り、修学上の配慮(補講・追試の実施、レポートの活用による学修評価等)を行うことができる。</p> <p>2) 各学部、学府等の判断により、ボランティア活動が授業の目的と密接に関わる場合は、ボランティア活動を実習・演習等の授業の一環として位置付け、単位を付与することができる。</p> <p>3) ボランティア活動を行うことによる休学の願い出があった場合は、学部通則第29条第2項及び大学院通則第35条の第2項に掲げる特別な事情として取り扱うものとする。</p> <p>4) 情報提供の在り方についてはホームページの掲載内容について検討中。</p>
九州	九州工業大学	<p>○ボランティア活動基本方針を定め、学生が参加できるボランティア活動は公的団体等に限り、参加に伴う授業の欠席については柔軟に取扱うこととした。その後、学内の4団体がボランティア活動を行った。そのうち1団体は、北九州市立大学主催のボランティアに参加し、活動を行った。</p> <p>〔URL:http://www.kyutech.ac.jp/info/id768.html〕</p>
九州	佐賀大学	<p>○復興支援ボランティアの募集とボランティアサポート体制を整備中。</p> <p>○経済学部学生1名が宮城県気仙沼市及び岩手県陸前高田市でのボランティア活動に参加(H23.6.19~H23.6.25)</p> <p>○理工学部学生1名が宮城県石巻市でのボランティア活動に参加(H23.10.28~H23.11.5)</p>
九州	長崎大学	<p>○学生が個人的にがれき等の清掃作業のボランティア活動に参加</p> <p>(宮城県岩沼市:4月28日~5月1日)</p> <p>(宮城県気仙沼市:5月23日~5月28日, 6月25日~7月10日)</p> <p>(宮城県南三陸町:5月21日~5月29日, 9月20~9月22日)</p> <p>(宮城県七ヶ浜町:8月29日~9月2日)</p> <p>(宮城県石巻市:11月19日~11月24日)</p> <p>(岩手県山田町:9月22日~9月26日)</p> <p>(岩手県陸前高田市:9月25日~9月28日)</p> <p>(岩手県遠野市:2月22日~2月28日)</p>
九州	熊本大学	<p>○医学部保健学科学生(2名)がNPO法人のボランティアとして、宮城県において災害物資の運搬、がれきの撤去等に参加した。</p> <p>○文学部学生(1名)が地元ボランティアグループの一員として4月末からの連休中に宮城、岩手、青森の避難所を慰問した。</p> <p>○医学部医学科学生(1名)が仙台市津波ボランティアセンターでのボランティア活動に参加した。(平成23年7月28日~31日)</p> <p>○くまもとアートポリス東北支援「みんなの家」プロジェクトの一環として、自然科学研究科大学院生5名が教員と共に、「みんなの家」(被災者の方々から精神的安らぎを感じられる空間)の設計を行った。「みんなの家」は、仙台の仮設住宅内に建設され、建設時には現場でボランティア活動を行った。(平成23年4月~9月:設計、平成23年10月:ボランティア)</p>
九州	大分大学	<p>医学部の学生有志による街頭募金活動、経済学部学生有志らによる救援物資の収集等を実施した。また、4月6、7日に、旦野原キャンパスの文化会・体育会の学生が、学内で募金活動を行った。</p> <p>さらに、「東日本大震災に伴う学生のボランティア活動に関する大分大学の方針について」を公表した。URL:http://www.oita-u.ac.jp/O1oshirase/volunteer2.html</p> <p>・2月末現在で、延べ11名の学生が、瓦礫撤去等のボランティア活動を行った。</p> <p>・6月17日~22日に、経済学部の山浦准教授及び学生3名が「七夕ぶどう」プロジェクトに参加した。このプロジェクトは、6月に大分県安心院町と宮城県多賀城市の園児・児童がぶどう栽培で使う袋に片面つつ絵を描き、9月に熟したぶどうを袋に入れたまま、再び多賀城市に届けるものである。(9月上旬まで実施)</p> <p>・大分県が創設した「大分県被災地支援木造施設等事業」に協力する形で、木製ベンチの製作を学生及び教員で行った。平成23年11月18日に宮城県七ヶ浜町で贈呈式を行った。寄贈したベンチは七ヶ浜町の仮設住宅敷地内に設置されている。</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
九州	宮崎大学	<p>○教育・学生支援センターにおいて、東日本大震災にかかるボランティア活動経費（交通費及び宿泊費）の一部助成を開始</p> <p>○活動状況（計13名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮城県栗原市 3名（5月1日～5月8日：畳の搬入、物資の仕分け、国境なき医師団のサポート） ・宮城県南三陸町 2名（5月5日～5月8日：保健師サポート、避難所雑用） ・宮城県石巻市 1名（7月22日～7月31日：道路、側溝の泥かき、物資の仕分け、配布） ・宮城県東松島市、石巻市等 1名（8月7日～8月13日：炊き出し、泥かきだし） ・宮城県東松島市、石巻市等 1名（8月7日～8月15日：中学校清掃、卒業式手伝い、女川復興祭手伝い） ・岩手県陸前高田市、釜石市等 1名（9月4日～9月8日：がれき撤去、被災者支援） ・岩手県大槌町、釜石市 1名（9月24日～9月25日：体育館清掃、がれき撤去、泥かき） ・岩手県宮古市、北上市 1名（9月24日～9月25日：体育館清掃、がれき撤去、泥かき） ・宮城県南三陸町 1名（9月24日～9月30日：イベント準備、がれき撤去、託児） ・宮城県気仙沼市 1名（10月11日～10月20日：がれき撤去、泥搬出、被災者支援）
九州	鹿児島大学	<p>○4月13日 東日本大震災に伴う学生のボランティア活動について、教育担当理事名で各部局長に対し、危機管理の観点から、当該学生は必ずボランティア支援センターへ登録するよう指導方を要請。併せて修学上の配慮についても要請。4月20日 ボランティア支援センター長名で、各部局長に対し、被災地でのボランティア活動に関する情報提供及び参加から活動終了までの手続方法等について周知。</p> <p>○被災地における瓦礫の撤去作業にあたる学生ボランティア17名45名が参加</p> <ul style="list-style-type: none"> 1名：石巻市（3月31日～4月5日） 2名：亘理町（4月28日～5月8日） 1名：東松島市（6月17日～6月20日） 1名：大槌町・陸前高田市（8月20日～8月22日） 3名：七ヶ浜町（8月29日～9月2日） 4名：七ヶ浜町（9月2日～9月6日） 2名：七ヶ浜町（9月6日～9月10日） 3名：七ヶ浜町（9月10日～9月14日） 1名：東松島市（9月16日～9月18日） 1名：大槌町・陸前高田市（9月20日～9月28日） 1名：陸前高田市（9月26日～9月30日） 2名：陸前高田市・釜石市（9月29日～10月1日） 5名：石巻市（10月1日） 2名：石巻市（10月22日） 2名：陸前高田市・釜石市（12月3日） 2名：盛岡市（12月27日～12月31日） 1名：石巻市（1月20日～1月28日） 2名：宮古市（1月29日～2月2日） 2名：七ヶ浜町（2月11日～2月12日） 2名：陸前高田市（3月2日～3月3日）（予定） 2名：遠野市（3月2日～3月9日）（予定） 1名：遠野市（3月2日～3月12日）（予定） 1名：遠野市（3月8日～3月11日）（予定） 1名：遠野市（3月8日～3月18日）（予定） <p>○被災地での活動を希望する学生が安心してボランティア活動に参加できるよう、また、支援ボランティア活動の啓発に繋げるため、6月29日に実際に現地で行った学生の報告会（災害支援ボランティア活動報告会）を行った。</p> <p>○被災地でのボランティア活動を支援するため、災害用ボランティア活動保険（保険料は大学側が負担）に加入させ、併せてボランティア用具（簡易テント、作業着、手袋、防塵メガネ、防塵マスク等）の貸出を行った。</p> <p>○被災地で3日以上（移動日を含む）ボランティア活動に従事した学生に対し、希望者には3万</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
九州	鹿屋体育大学	<p>○学生が個人活動として、休学（H23.4.1～H24.3.31）によるボランティア活動を願い出たため、それを許可した。</p>
九州	琉球大学	<p>○日本法医学会の要請により医学研究科の大学院生（2名）を死体検索支援のため岩手県に派遣した。（4/4～4/19、4/6～4/15）</p> <p>○法文学部の学生（1名）が、宮城県石巻市にて家屋から泥をかき出す活動等に従事した。（4/19～4/22、日本財団（東京都港区）大学生ボランティアの一員として）</p> <p>○農学部の2年次学生（1名）が、被災により県内に避難されてきた家族（特に子供）をサポートするため、休学（4/1～3/31）してボランティア活動に参加している。</p> <p>○「東日本大震災にかかる学生のボランティア活動への指導手続要項」に基づき、被災住宅の泥の掻き出し等のボランティアに、法文学部の学生2名が自主的に参加する。（4/19～4/22、5/3～5/7）</p> <p>○学生による被災地でのボランティア活動への配慮について（教務関係）の具体的な対応を決定した。</p> <p>○「学生援護会東日本大震災ボランティア活動支援金実施要項」を制定し、被災地において自発的なボランティア活動をする学生に対し、活動支援金を支給することを決定した。</p> <p>○「東日本大震災にかかる学生のボランティア活動への指導手続要項」に基づき、被災住宅の泥の掻き出し等のボランティアに、学生7名が自主的に参加した。（5/27～5/30、8/23～8/26）</p> <p>○NPO法人エクスブリッジの復興支援ボランティアプロジェクトを通し、8月28日～9月5日までの約1週間、7名の学生を被災地に派遣し、がれきの撤去や被災した中小企業の復興支援を行った。</p> <p>○「学生援護会東日本大震災ボランティア活動支援金実施要項」に基づき、被災地でボランティア活動を行った学生5名に対して活動支援金を支給した。（11/1）</p> <p>○理学部3年次学生（1名）が地元、長野災害ボランティアセンターを通じて、大槌町にてボランティア活動を行った。（8/22～8/28）</p> <p>○理学部3年次学生（1名）が宮城県の海岸清掃活動に参加した。（9月）</p> <p>○工学部3年次学生（2名）が、宮城県名取市、仙台市、多賀城市、石巻市でガーデン整備等のボランティア活動に参加した。（2月18日～26日）</p>